

「島根県教育センター開設75周年」

島根県教育センター 伊藤 尚史
教育企画部長



今年、島根県教育センターは開設から75周年を迎えました。

その歴史は第2次世界大戦が終わった3年後の昭和23年にはじまります。3月に教育基本法並びに学校教育法が公布された後、5月には「新教育各般にわたる諸問題を調査研究し、教員の積極的研修を助成して、教育実践の振興に資すると共に、教育行政当局の諮問に答え、あるいは自ら意見を具申して、教育の充実刷新に寄与する」ことを目的に島根県立教育研究所が設立されました。島根県教育委員会の発足よりも半年はやかったようです。

以降、島根県教育センターは教育をめぐる諸課題や教育の本質を研究し、その成果を先生方の研修に生かして本県の教育をリードしてきました。ソ連が初めて人工衛星スプートニク1号を打ち上げ、「スプートニクショック」という言葉が流行した昭和40年代には、めざましい科学技術の発展に対応するために、世界各国で自然科学教育に関心が高まってきました。そんな中、科学技術や情報化社会に即応するために、昭和46年に島根県立教育研究所が廃止され、理科センターに大きなウエイトがかけられた島根県立教育センターが発足しました。その際、現在の庁舎が建設されましたが、管理部門、教育相談部門・進路指導部門、視聴覚部門とならんで、物理、生物、化学、地学の4分野のそれぞれが実験室や準備室を持つ理科部門も置かれることになりました。年々充実する理科部門の施設設備等は近県はもとより全国の理科センターから羨ましく思われるほどだったようです。昭和48年には情報処理教育センターが設置されましたが、当時、中国地方で一番容量が大きくスピードの速い優れたコンピュータが整備され、ここでも他県からの視察を多く受け入れていたようです。充実した環境のもとで島根県教育センターが推進した理科教育は島根県の科学教育や情報処理教育を牽引し続けました。同じころ、我が国全体でも科学技術が急速に発展し、飛躍的な経済成長をもたらしました。

科学技術について言えば、話題となっているチャットGPTをはじめ、ICT分野でめざましくイノベーションが進んでおり、島根県教育センターが100周年を迎える25年後には予測不可能なほど社会が変化していると言われていています。そうした社会を生き抜く人材を育成するため、中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの実現に向けて 審議のまとめ」では「新たな教師の学びの姿」が求められています。また、文部科学省が「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン」を示したことを受けて、島根県教育委員会は「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関する運用の手引き」を作成し、今年度から「島根県教育センター研修情報システム」の運用を開始しています。島根県教育センターは先生方にキャリアステージに応じた資質能力の向上をはかってもらうため、「島根県教職員研修計画」に基づき、ICTの活用を含め、多種多様な研修を整備しております。島根県教育センターはこれからも、教育をめぐる諸課題や教育の本質を研究し、その成果を生かして、先生方が探究心を持ちつつ、自律的に学ぶことを支援してまいります。

理科

数学理科 教員授業力向上研修を実施しました

数学

令和4年度より3カ年の計画で、「中学生の理数探究心育成事業」を実施しています。目的は、本県で不足している産業人材の育成に向け、中学生の理数探究心の高揚を図り、高校段階において理系選択が可能な学力と関心が高まるよう、理数教員の授業力のさらなる向上を図ることです。

令和4年度は、年間6回の「中学校数学理科教員リーダー育成研修」を実施しました。

令和5年度は、県内の中学校すべての数学科及び理科の教員を対象にオンラインによる全3回の「授業力向上研修」を、リーダー教員のコーディネートにより実施しました。第2回では、数学は文部科学省の水谷尚人教科調査官、理科は文部科学省の小林一人教科調査官及び日本大学文理学部の野内頼一教授（文部科学省の前教科調査官）を講師としてお招きし、ご助言をいただきました。



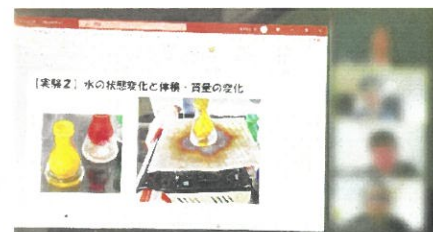
授業力向上研修（理科）の様子

受講者の感想

数学に興味をもち、数学を継続して学ぼうとする生徒に不可欠なものは、様々な学習課題に対して「わかった&自分でできた」という成功体験の積み重ねだと思います。普段の忙しさの中で、自己流の授業になりがちですが、今回のように同じ教科の先生からいろいろと刺激をいただけて良かったです。

他校の先生方との協議がとても学びになりました。さまざまな先生方の考えに触れて、改めて理科の良さに気づくことができました。教材との出会わせ方の工夫、生徒の言葉で探究が進む授業、生徒自身が見いだすことができる授業の工夫などたくさんの学びがありました。これから実践していきたいです。

次世代を担う教員の意気込みが実践を通して感じられて良かったです。生徒に対して科学の楽しさや魅力、生活との関わり、将来の発展性などを豊かに伝えたいものである。



グループ別協議の様子



3年次に当たる令和6年度は、中学生を対象とした講座（数学は「わくわく数学教室」、理科は「わくわく理科実験教室」）を8月に教育事務所管内ごとに実施します。それぞれの教科の講座について、各会場の定員は20名としていますが、多くの中学生からの応募を期待しています。講座の内容等の詳細は、令和6年度に改めてご連絡します。





令和6年度 島根県教育センター 島根県教育センター浜田教育センター 教育研究発表会

教育センターでは、教職員の皆様の参考になり、教育課題の解決の一助となることを目指し、調査・研究活動に取り組んでいます。この研究の成果を発信する場として、「子どもを主語にする学校教育の創造」というテーマで令和6年度教育研究発表会を開催します。皆様のご参加・ご視聴をお待ちしています。

テーマ	『子どもを主語にする学校教育の創造』	
第2部	日時	令和6年5月18日(土) 13:30~16:00【オンライン配信(Youtube Live)】 (※アーカイブ配信 5月18日~6月28日)
	講演	『ウェルビーイングの実現と 令和の日本型学校教育がめざすもの ~ ICT活用を手段に ~』
	講師	溝上 慎一氏(学校法人桐蔭学園 理事長 桐蔭横浜大学 教授)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・第1部として、指導主事共同研究と長期研修員研修報告をオンデマンド配信(5/10~6/28)いたします。 ・本発表会の参加をもって、管理職セレクト研修、フォローアップ研修(2年目)の校外自主研修とすることができます。 	



参加申込等の詳細については、4月中旬に案内いたします。

研修報告

■「GIGAスクール時代の遠隔・オンライン講座」、「GIGAスクール時代のクラウド活用講座」

昨年4月時点で、1人1台端末を授業で活用している小中学校の割合は「週3回以上」が約8割に上ります(令和5年度「全国学力・学習状況調査結果」)。端末を毎日使い授業が変わり始めた学校がある一方で、あまり活用していない学校があるという状況は全国も島根県も同様です。そこで本講座では1人1台端末&クラウド環境だからできることを体験し、クラウドの強みを生かした授業づくりについて考えました。



受講者からは「校内で伝達研修し、(ICTの活用に対して)苦手意識を持っている教員が少しでもやってみようと思えるように。」といった声が聞かれ、それぞれの学校内での広がりも期待できそうです。

文部科学省の武藤久慶氏は「まず働き方改革での活用、校務や研修での活用を」とおっしゃっています。クラウドの良さは使ってみなければわかりません。子どもたちの学びのアップデートのために、ぜひ皆様の仕事もアップデートを。

■「新学習指導要領実施のための高等学校授業改善研修」

今年度で「新学習指導要領実施のための高等学校授業改善研修」が終了しました。本研修は、島根県内の公立高等学校のすべての教員を対象とした悉皆研修で、令和3年度からの3年間、平成30年に告示された学習指導要領を基にICT利活用と学習評価についての理解を深める目的で行いました。今年度の研修においては、「1人1台端末の活用について実践意欲が高まった」、「評価について教科会で検討することの必要性を再認識した」などの感想が見られた一方で、特に学習評価については苦労や不安の声も聞かれました。

次年度からは、能力開発研修において中学校、高等学校の教員を対象とした教科指導に関する研修が再開されます。文部科学省などから講師を招き、改めて学習指導要領と学習評価について学ぶとともに、ICT機器の活用や学習評価などについて実践発表や演習、協議を取り入れ、授業を具体的にイメージして授業改善への意欲を高めることができる研修となるように計画しています。**ぜひ、次年度の能力開発研修に参加ください。**

※OJT研修 日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修
 Off-JT研修 日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修

R6 年度能力開発 研修について

島根県教育センター 教育相談スタッフ



島根県教育センターでは、様々な能力開発研修を予定しています。令和6年度も素敵な講師の皆様にご参加いただけます。こちらのセンターだよりを見てくださっている方に、いち早くご紹介させていただきますので、ご興味のある研修がありましたら、ぜひお申し込みください。年度当初に、研修を計画される際の参考になれば幸いです。

令和6年度 教育相談・特別支援教育 能力開発研修 (島根県教育センター担当)

教育相談セッション

【921】不登校の理解と支援講座

講師：奈良女子大学 研究院生活環境科学系
臨床心理学領域教授 伊藤美奈子 氏
日程：7月5日(金)<午後>オンライン

講師：教育指導課 子ども安全支援室 指導主事
日程：6月下旬~7月上旬 オンデマンド配信

子どもたちの社会的な自立を目指して
支援の視点について考えてみませんか？

【1298】子ども理解と支援講座

講師：島根大学人間科学部教授 岩宮恵子 氏
日程：9月12日(木)<午後>
島根県教育センターまたはオンライン

子どもたちの生きている世界について知り、
かかわり方を考えてみませんか？

【1100】教職員のかかわる力を高める実践講座

講師：スクールカウンセラーおよび県内講師
日程：11月14日(木)<1日>島根県教育センター

演習を通して、子ども・保護者・同僚との
よりよいかかわり方を体験してみませんか？

特別支援教育セッション

【1215】特別支援教育専門講座

講師：ノートルダム清心女子大学
人間生活学部児童学科准教授 青山新吾 氏
日程：9月13日(金)<1日>
島根県教育センターまたはオンライン

通常の学級の中で誰もが達成感を感じながら充実
した時間を過ごすために、私たちにできることは？

【1299】すべての教職員に役立つ！ 支援につながる子どもの理解講座

講師：宮城学院女子大学
教育学部教育学科教授 梅田真理 氏
日程：10月29日(火)<1日>オンライン【予定】

子どもの願いに寄り添ったかかわりと支援を
一緒に考えてみませんか？

他にも**浜田教育センター**の教育相談・特別支援教育にかかわる研修や、企画・研修スタッフ、研究・情報スタッフ(島セ)研究・研修スタッフ(浜セ)の多種多様な研修がございます♪

令和6年4月下旬に申し込み開始予定です。
詳細&お申し込みは**研修情報システム**にて！



ただただ、学校のお役に立ちたい！これを読んでいる「あなた」の浜田教育センターです！

今年の浜セの研究は…？

その研究は、果たして学校のお役に立てるものになっているのか？

浜田教育センターでは、今年度から「学校現場の『学級づくり』を支える教育センターの取組」「学校の自走をアシスト！自立した学習者を育てる校内支援プログラムの作成」の2つの研究に取り組んでいます。いずれの研究も、学校訪問時の先生方の声や研修時のアンケートから受けた“今の悩み”に応えたい！もう、それだけでスタートした研究です。ですが、「研究して成果物配って、ハイ終了！」ではなく、常に心に留めおきたいのはその研究は、果たして学校のお役に立てるものになっているのかという点です。

先生にとって学校で活かせる研究でありたい！

「どうせ、センターでやってる研究って学校には関係ないでしょ？」研究がセンター内で完結するものであってはなりません。そこで、両研究とも、出前講座や能力開発研修と連携し、研究内容を踏まえた内容に組み立てています。ぜひ、受講したい講座があればセンターのHPから研究内容もご覧いただきたいと思っています。そして、心のアンテナにヒットする内容であったなら、ぜひ浜セにお声かけを！

詳しく知りたい？
じゃあ、センターの教育
研究発表会の
オンデマンド配信が
あるじゃん！



浜セにおまかせあれ！

